

令和3年度 八重山商工高等学校評価(自己評価・学校関係者評価)

1 学校の教育目標

- ①専門的な知識、技術及び技能を習得させ、産業界且つグローバル社会で活躍する生徒の育成に努め、保護者や地域に信頼される学校教育を実践する。
 ②豊かな人間性と創造性の伸張を図り、心身共に健康で、社会を生き抜くための「基礎力」「思考力」「実践力」を備えた生徒の育成に努める。
 ③教育公務員としての法令遵守とワーク・ライフ・バランスを意識した働き方で学校教育の質を高める。□

2 本年度の具体的取組

- ①教育環境の整備 ②校内施設の整備 ③特別活動の充実 ④進路指導の充実 ⑤キャリア教育の充実 ⑥生徒指導の充実 ⑦授業の工夫改善 ⑧朝学習の定着
 ⑨ICT利活用教育の推進 ⑩感染症対策と健康の保持増進 ⑪校内研修の充実 ⑫適正な事務処理 ⑬危機管理意識の向上 ⑭愛校心の醸成 ⑮PTA・地域との連携

3 職員による自己評価(令和3年度での改善及び成果)

評価基準 A:とてもそう思う B:そう思う C:そう思わない D:とてもそう思わない			自己評価	令和2年度の課題	課題に対する令和3年度での改善及び成果	学校関係者評価
評価項目	具体的目標	具体的方策				
教育目標	教育実践の充実	① 職員は教育目標を意識して教育実践している。	B	生徒への説明に関しては始業式や学級開き、LHRでの周知を行う。保護者へはPTA総会や学級懇談会等で周知を行う。	今年度はマメールでの周知、HPでの迅速な情報開示及、Teamsでの連絡周知ができた。	B
	教育目標の周知徹底	② 教育目標は生徒や保護者に周知されている。				
教育計画	実態に即した教育計画	① 生徒の実態に即した教育計画を編成している。	B	各科・各コース、各教科において年度当初に話し合いを持ち、具体的な目標の設定を行う。	評価システム育成評価記録書の中で、学校教育目標、具体的取組をもとに職員が年間を通しその具現化に取り組んでいる。	B
	生徒の個性伸張	② 生徒個々を伸ばす教育実践をしている。				
学校運営	生徒の学力向上支援	① 生徒個々を伸ばす教育実践をしている。	B	継続的な実践が必要となるので、これまでの成果を無駄にすることなく全員で取り組んでいく。	平和学習や公民館と連携しての取り組みなどこと中ではあるが外部と連携した取り組みにより評価された。	B
	家庭地域との連携	② 家庭・地域と連携した学校運営が実施されている				
教科指導	家庭学習の習慣化	① 生徒の実態を踏まえた分かる授業・参加する授業が実践されている。。	A	全職員で授業改善に取り組み単位保留科目を持った生徒への対応について検討する。	オンライン授業の充実により、コロナ禍における家庭学習の習慣化ができた。進路決定率100%を達成した。	A
	学力の向上と目標達成	② オンライン授業などで、分散登校時の学力保障の手立てが行き届いている。				
特別活動	生徒会活動の充実	① 委員会活動を活発に行い、生徒が主体的に学校行事等に取り組むよう、指導されている。	B	新入生に向けての体育系・文化系の入部への促進。各委員会の生徒の主体的な活動の支援を図る。	サッカー部をはじめ運動系、文化系、工業系、商業系部活動で素晴らしい活躍を見た。部活動顧問の負担軽減が次年度の課題。	B
	部活動の活性化	② 部活を奨励し、学校生活を充実させる指導がされている。				
生徒指導	健全な生徒の育成	① 定期的な身なり指導・勤怠指導を通し、生活の乱れを未然に防ぐ指導がなされている。	B	身なり・勤怠指導に関しては担任・生徒指導部を中心に全職員で継続して取り組む。アルバイト指導は家庭、事業者と連携した指導を検討し実施している。	身なりに関して、ツーブロックの解釈の緩和など時代に合わせた改善を行った。重大な事故はなかったが、登校時の自転車と車との接触事故が7件。登校時の交通安全指導を継続してできた。	B
	交通安全・事故防止	② 交通安全指導を通し、交通事故の防止に努める。				
進路指導	PTA進路学習会の実施	① 生徒の自己実現に向けて計画的、継続的、系統的な進路学習がなされている	B	進路決定100%の達成は基より、今後は定着率の向上にも努める。また、大学進学を増やすための手立てを考えていく。	進路決定100%の達成を達成。管理職をはじめ、全職員で入試指導により、国立大学も合格。定着率の調査、向上の手立てが必要。	B
	進学・就職指導の充実	② 全職員一丸となり、進路決定率を高めている。				
健康・安全指導	健康意識の向上	① 健康な生活習慣の確立とその意識の高揚に努めている。	A	職員の普段からの目配り、気配りにより大きな問題は発生していない。今後も安全・安心な学校づくりに向けて目配り、気配りを続けていく。	いじめアンケート、きめ細やかな相談、相談しやすい雰囲気づくりの効果で、大きな問題は発生しなかった。教育相談に関する職員研修を行うことで、自己肯定感の重要性を認識させ、職員が生徒に対する親和的な雰囲気作りをすることができた。	A
	危機管理体制の充実	② 危機管理体制を整備し、各種点検を行う。				
	いじめのない学校づくり	③ 全職員でいじめの未然防止・早期発見に努め、いじめが発覚した場合にはいじめ防止対策委員会を中心に適切に対応している。				
環境美化	清掃活動の徹底	① 生徒の主体的な清掃・美化活動の指導を十分行っている。	B	学校緑化は環境保健部職員が中心に行っているが、美化委員会を活用し、生徒中心に活動ができるように指導を心がける。	美化委員会によるゴミの分別活動、清掃強化週間の実施など生徒の主体的な活動を促すことができた。	B
	緑化計画	② 学校緑化が計画的になされている。				
家庭地域連携	ニーズに応えた教育活動	① 学校の教育活動が、保護者・地域に説明されている。	B	今後もHP更新を活発に行い、地域や中学校にアピールする。中学生への体験入学や学校説明会の際にはQRコードの配布などHP閲覧してもらおう工夫が必要。	今年度は各学校行事毎のHP時の更新を活発に行うことができた。メールサービスの運用により、HPへの誘導、生きた情報の発信をすることができた。サービス加入100%を目指す。	B
	保護者との連携と理解	② 保護者・地域の要望を生かした教育活動が行われている。				
中途退学対策	中退者をなくす取組	① 全職員が連携し、組織的に長欠者への指導・支援を図り、中退対策に取り組んでいる。	B	教育相談係りや養護教諭、外部カウンセラー、HR担任によるきめ細やかな指導および全職員による指導に取り組む。	教育相談係、養護教諭、スクールカウンセラー、HR担任が連携し取り組んだ。人間関係づくり研修を数クラスで行い、学校不適応の未然防止に取り組んだ。	B
	全員進級及び卒業	② 補習・補充を行い、全員進級・卒業を目指した指導を行う。				